

沖縄県東京事務所
〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6-3
都道府県会館10階
TEL.03-5212-9087 FAX.03-5212-9086

沖縄県大阪事務所
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1丁目1-3-2100
大阪駅前第3ビル 21階
TEL.06-6344-6828 FAX.06-6346-1784

沖縄県名古屋情報センター
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1
中部日本ビルディング4階
TEL.052-263-3618 FAX.052-263-3619

沖縄県北京事務所
北京市朝陽区東三環北路3号幸福大厦B座619号室
TEL.+86-10-6466-8679 FAX.+86-10-6466-6603

沖縄県上海事務所
上海市黄浦区漢口路 398号 華盛大廈16階1603B号
TEL.+86-21-6351-0231 FAX.+86-21-6350-7369

沖縄県香港事務所
Unit 1211,12/F,Prosperity Millennia Plaza,663 King's
Road,North Point,HK
香港北角英皇道663號泓富産業千禧廣場12樓1211室
TEL.+852-2968-1006 FAX.+852-2968-1003

沖縄県台北事務所
台北市中山区松江路 148号4階E室
TEL.+886-2-2521-0376 FAX.+886-2-2542-7075

沖縄県シンガポール事務所
1 North Bridge Road #22-09
High Street Centre Singapore 17094
TEL.+65-6694-6408 FAX.+65-6694-5442

沖縄県 商工労働部 アジア経済戦略課
TEL.098-866-2340 FAX.098-866-2526

沖縄県 商工労働部 企業立地推進課
TEL.098-866-2770 FAX.098-866-2846

〒900-8570沖縄県那覇市泉崎1-2-2 県庁舎8階

■「沖縄国際物流ハブ・OKINAWA Bridging Asia」
<http://www.jpn-okinawa.com/jp/>

■「経済特区沖縄」
<http://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/seisaku/kikaku/keizaitokku.html>



アジア主要都市への最速物流を実現

沖縄国際物流ハブ

CONTENTS

History

21 世紀の万国津梁をめざして	01
物流拠点としての沖縄	02

Logistics

アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成	03
沖縄国際物流ハブの強み	05
沖縄を拠点とした在庫モデル	07
全国の特産品を沖縄からアジアマーケットへ	09
ビジネスマッチングを実現する人的支援と航空ネットワーク	11
那覇から世界各国へ、国際競争力を高める海上物流	13

Support

日本で唯一の国際物流特区(国際物流拠点産業集積地域)	15
豊富な支援制度とインフラ整備	17

21世紀の万国津梁をめざして

■沖縄が日本とアジアをつなぐ架け橋になる

古くから、沖縄はアジア諸国を相手に交易・中継貿易を行い、万国の津梁(=世界の架け橋)としての役割を担い、繁栄してきました。

そして、アジアの経済発展にともない、沖縄の地理的優位性が今再び、注目されています。

沖縄県では舞台を海から空へ広げて東アジアの中心に位置するという地理的優位性を活かし、沖縄のみならず日本全体とアジアの発展に貢献する「21世紀の万国津梁」をめざしています。

○万国津梁の鐘(15世紀に鑄造、首里城本殿に掲げられていた)



■沖縄県の概要

I. 自然

面積 約2,281km²(全国44位)
[沖縄本島の18.3%が米軍基地]
地勢 160島(有人島は49)、
東西約1,000km、南北約400kmと、
広大な県域を持つ
年平均気温 23℃(亜熱帯海洋性気候で年間を
通し温暖だが、35℃を超える猛暑
日はほとんど無い)

II. 人口

人口 約142万人(平成26年)
[沖縄本島中南部地域
[470km²:約20%]に
人口の約80%が集中]
出生率 1.90人(全国1位)
年少人口割合 17.6%(全国1位)
人口増加率 0.4%(全国2位)
(参考:1位:東京都)

III. 産業

年間観光客数 約780万人(平成27年)
産業別総生産 1次1.6%、2次12.3%、
3次85.9%
経済成長率予測 1.07%
(全国1位 平成19年~平成32年
実質平均成長率予測
[日本経済研究センター])

History

物流拠点としての沖縄

OKINAWA
Bridging Asia

■東アジアの中心に位置する地理的優位性 ~20億人の巨大マーケットの中心~



沖縄県では、時代に即した新たなリーディング産業として、「観光リゾート産業」、「情報通信関連産業」に国際物流拠点の形成により、沖縄のみならず日本とアジアの発展に貢献する「21世紀の万国津梁(=世界

次ぐ第三の柱を「国際物流拠点の形成」とする目標を掲げ、官民一体となって取り組みます。の架け橋)」を目指します。

沖縄新・リーディング産業の育成と状況

第1の柱 観光リゾート産業

沖縄の豊かな自然環境との共生が図られたエコリゾートアイランドや、歴史・文化、スポーツなど多様な魅力ある資源を活用した沖縄独自の観光プログラム(高付加価値型観光)を戦略的に展開するとともに、安全・安心・快適な観光地としての基本的な旅行環境の整備等により、世界に誇れる“沖縄観光ブランド”を確立し、世界的にも広く認知され、評価される観光リゾート地の形成を目指します。

- 入域観光客数約780万人(平成27年)
1972年比約14倍
- 観光収入約5,342億円(平成26年度)
1972年比約16倍



第2の柱 情報通信関連産業

東アジアの中心に位置し、豊富な若年労働者を有するなど本県の特性を最大限に生かし、アジアにおける国際情報通信拠点“ITブリッジ”として我が国とアジアの架け橋となることを目指し、沖縄IT津梁パークを中核に国内外からの企業立地促進、県内立地企業の高度化・多様化、人材の育成・確保、情報通信基盤の整備等に取り組めます。

- 沖縄へ進出した企業346社(平成26年度)
- その新規雇用者数25,912人(平成26年度)



第3の柱 国際物流拠点の形成

那覇空港の航空物流機能の更なる拡充等により、東アジアの中継拠点として本県の国際物流機能を高めるとともに、この物流機能を活用した新たなビジネスを展開する臨空・臨海型産業の集積を図り、那覇空港・那覇港を基軸とする国際物流拠点を形成します。

これにより、新たな時代における万国津梁を実現するとともに、県内事業者等による海外展開や輸出拡大を促進するなど、著しい経済発展を続けるアジアの成長と活力を取り組む自立型経済の構築を目指します。

那覇空港の国際貨物取扱量

- 約17万7千t
(平成20年比約100倍)
- 成田、羽田、関空に次ぐ
国内第4位
(平成27年)

沖縄県の国際物流拠点形成への取り組み

第1ステージ

- ANA国際貨物ハブ開始【平成21年10月】
- 国際物流特区(国際物流拠点産業集積地域)の創設【平成24年4月】
- ロジスティクスセンター等の企業受入インフラの整備
- 沖縄県産品の輸出拡大



第2ステージ 【現在】

- 航空路線・海運航路の拡充
ANA国際貨物ハブの航空ネットワークは、開始時の8路線から12路線に拡充し、海運航路もアジア向けの航路が新設されました。
- 国際物流特区の拡大
一部地域に限定されていた国際物流特区を、那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満市の全域、中城湾港新港地区に拡大しました。
- 全国特産品流通拠点化推進
沖縄を経由することで、日本全国の特産品を新鮮なままアジアへ最短翌日配達することが可能になりました。
- フォワーダーの物流拠点
那覇空港の隣接地等に、国際貨物事業の拠点となるロジスティクスセンターを整備しています。
- Eコマース・通販ストックセンター
Eコマース・通販の在庫拠点を沖縄に設置することで、国内外からの顧客の注文に迅速に対応できます。
- 緊急パーツセンター
深夜貨物便の活用と24時間通関体制により、アジア向け緊急パーツセンターの運用が可能です。



第3ステージ

- 流通・保管・展示・3PL等の拠点形成
- 世界的メーカーの物流拠点
- 那覇空港第2滑走路増設
- 航空・海運企業の進出によるネットワークの拡充

